



「自立、協働、自信・誇りと感謝」に満ちた学校づくり

「ついにわれら喜びて」

あとは任せたまよ!!

R2. 10. 27発行
文責：副校長

市中体連駅伝大会

さわやかな秋晴れの下、八代中体連駅伝大会が15日(木)に県営八代運動公園陸上競技場で行われました。大会には八代郡市の中学校16校が集まり、競技場周辺の周回コースを、男子6区間、女子5区間を襷リレーし優勝を競いました。本校からは男女各チームが参加し、男子は13位、女子は6位でフィニッシュ。女子チームは1区と3区で区間賞を獲得する健闘を見せ大会を終えました。



八代路に泉旋風!

気持ちで負けない走り

他校は、サッカー部や野球部など普段から走り込んでいる部や、専門的に走力を高めている陸上部員等を選抜して出場する学校が多く、学校規模が小さい本校にとつては、有利な状況とは言えません。しかし、それをものともせず結果を残せたのは素晴らしい事です。監督の松本教諭は「今年、自分の最大限の力を発揮させる事を意識させました。日頃から、『自分に勝つ(負けない)』という気持ちで襷を繋げるよう指導しました。来年は県大会を目指します。」と大会を振り返っていました。今回は、中体連大会が中止となった悔しい気持ちと、全員が自分に負けない気持を襷に込めて走り、結果を

残したことに、大きな収穫があったようです。今大会で得た自信を今後の生活に生かすことを期待します。

「継続は力」

本校は登校後、毎日小学生は5分間、中学生は約10分間の「朝ランニング」を行っています。七年前に泉一小と二小が統合し、全ての児童生徒がスクールバスで登校することになり、運動不足の解消と体力の向上から始まったと言われている。走るペースとなる足腰の鍛錬という点では、今大会の躍進の一助になった事と思います。選手全員(走った選手、控えの選手全て)のこれまでの努力を讃えたいと思います。

駅伝の歴史



駅伝競技は、明治になり、政府が京都から東京に移された事を記念して大正6年に大博覧会「東京遷都50周年奉祝」で、「東海道五十三次駅伝徒歩競争」が開催されたのが始まりだそう。駅馬(えきば)や伝馬(てんま)という馬を使って手紙や物資を運んでいた「駅伝制」からヒントを得て「駅伝」という名前が付けられたと言われている。同大会では、関東組と関西組の2チームが3日間かけて東海道を走り抜いたように、三さんがアンカーを努められたそう。

ようこそ! 泉小学校へ

「いずみ学園 泉第八小との交流学習」

泉小、泉第八小、泉中を合わせて「いずみ学園」と呼んでいます。小学校卒業後に泉中の子どもたちが、10月21日(水)に泉小で合同授業を行いました。泉第八小の友達が縦木から車で1時間以上かけて来てくれるのを、毎年楽しみにして、先生も子どもたちもすっかり仲良しです。この日は、低学年は生活科体験学習で泉町の施設と一緒に国語や算数、理科の学習をしていました。はじめは緊張した様子でしたが、時間とともにほぐれ、楽しく過ごしていました。また来年待っています!



八小の先生による授業(5年生)

音楽劇

インソップランドの動物たち

「文化芸術による子ども育成事業」

この事業は、一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより次代の文化の担い手である子どもたちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的とした事業です。この公演に先立つて、小学校では「第一八小をはじめ、

ワークショップでは演劇指導

公演に関するワークショップで『伝える』『感じる』『自由な表現する』を目標として俳優さんから実演指導をしてもらっていました。当日の鑑賞会では、演劇集団の遊玄社が来校しミュージカル公演を行いました。交流学習中の



劇団のミュージカル